

「フィジカルアセスメントの実習を行って」

令和3年度在宅ケア認定看護師教育課程 研修生

森本 瑞恵(兵庫県:医療法人社団慈恵会もみじ訪問看護ステーション)

訪問看護師は、在宅療養の場において療養者様の状態により、緊急な判断を迫られる場面が多く、自分自身の観察力、アセスメント力にかかる部分が多いと考えます。もっと“自信をもって患者様の状態を把握し、アセスメントができるようになりたい”との思いが強まっていた時に、在宅ケア認定看護師教育課程受講の機会が得られ、4か月が経過しました。働きながら学ぶことは、思っていた以上に厳しい現実がありましたが、それ以上に学ぶことのメリットは大きいと感じております。長年疑問に思っていたことが解消されたり、自身があまり興味をもてない分野で新たな発見があったり、体系的に学ぶことでようやく繋がったと思える知識もありました。また、7月末に行われたフィジカルアセスメントの講義では、医学部のある徳島大学ならではの高度なテクノロジーが搭載された人体模型で学習することができました。心音や呼吸音の聴取、エコーの使用法、その他腹部・頭頸部の診察の方法もポイントを聴きながら模型を使って実践でき、身体診察の方法を学ぶことができました。e-ラーニングで学んだ知識を実技で確認でき、知識の定着につながったと思います。

自身が学んだ事はステーションに持ち帰り、スタッフの知識・技術の向上につながるよう共有し、一人一人のスタッフが今よりも自信をもって患者様へケアの提供ができるようにしていきたいです。そして患者様には安心を届けたいと思います。



(職場での勉強会の開催の様子)



(右端が森本研修生)